

戦後 75 年 特別企画展

占領から独立までの軌跡

1945-1952



会期
2020年

7月18日(土) ▶ 9月6日(日)

会場: 昭和館3階特別企画展会場

開館時間: 10:00~17:30(入館は17:00まで)

休館日: 月曜日(8月10日は開館、8月11日は休館)

後援: 千代田区、千代田区教育委員会

入場無料



 昭和館

URL <https://www.showakan.go.jp>

 <https://twitter.com/showakankudan>  <https://www.facebook.com/showakankudan/>

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1 TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575





戦後75年特別企画展

占領から独立までの軌跡

1945-1952

ごあいさつ

昭和20年(1945)、この年を境に日本人の価値観は大きく変容します。同年8月15日正午、ラジオから流れる玉音放送により敗戦を告げられた日本国民は、戸惑いと生活苦を抱えながら、「復興」にむけて歩み始めました。しかし、家族を亡くし、住む家と財産を失い、食糧と物資が不足する過酷な状況の中で、自力で「復興」を成し遂げることは困難を極めます。

同年9月2日、降伏文書への調印後、日本は連合国軍の占領下に置かれ、GHQによる指導のもと、「非軍事化」と「民主化」を掲げた政策と「復興」が推し進められました。さらには混沌とした日本社会に新しい秩序が築かれ、国民生活は大きく変容していきました。

本展では、終戦から昭和27年4月28日にサンフランシスコ平和条約が発効し、日本が独立を果たすまでの6年8ヶ月間、いわゆる占領期を中心に、戦後日本の社会や生活、文化の移り変わりを紹介します。



展示構成

プロローグ 昭和20年8月15日

I 占領と改革のはじまり

GHQの日本進駐
接収
五大改革指令
日本国憲法の制定
家父長制の解消

II 占領政策と生活の変容

(1)生活
食糧事情
住宅事情
公衆衛生
衣料事情
(2)文化
検閲制度
映画文化の隆盛
スポーツの復活
軍需から民需への転換

III 独立への道

経済政策と統制解除
民間貿易の再開 ~オキュパイド・ジャパン~
朝鮮特需
サンフランシスコ平和条約

エピローグ



(表面写真上) 新橋の闇市 昭和21年(1946) 衣川太一提供
(表面写真下) PXとして接収された銀座松屋 昭和26年(1951) 衣川太一提供
(裏面写真) 船員が見守る中で行われた調印式・ミズーリ号 昭和20年(1945)9月2日 米国国立公文書館提供



〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

7・6階には常設展示室(高校生以上有料)があります。

電車ご利用の場合

地下鉄九段下駅から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線 出口4)

JR飯田橋駅から徒歩約10分

車をご利用の場合 首都高速西神田ランプから約1分(九段下交差点)

有料駐車場(30分200円・普通乗用車のみ)



お問い合わせ先：昭和館学芸部 TEL 03-3222-2577